小田野直武・佐竹義躬生誕260年

秋田蘭画とその周辺展

＜美術館展示作品＞

国指定重要文化財　小田野直武筆　「不忍池図」
秋田県立近代美術館蔵

＜伝承館展示作品＞
解体新書
（新潮社記念文学館蔵
仙北市指定文化財）

＜文学館展示作品＞
佐竹北家御日記
（秋田県公文書館蔵
秋田県指定文化財）

■**会期**:10月3日（土）～11月8日（日）（会期中は3館無休）
■**開館時間**:午前9時～午後5時まで（入館は午後4時30分まで）
■**会場**:角館町平福記念美術館　TEL（54）3888
角館樺細工伝承館　TEL（54）1700
新潮社記念文学館　TEL（43）3333
■**入館料**:大人300円（各館）　小人200円（美術館）／小人150円（文学館・伝承館）
＊20名より団体割引有　2館・3館共通券もあります
■**主催**:仙北市
■**後援**:秋田魁新報社、朝日新聞秋田総局、読売新聞秋田支局、毎日新聞秋田支局、産経新聞社秋田支局、日本経済新聞社秋田支局、河北新報社秋田総局、NHK秋田放送局、ABS秋田放送、AKT秋田テレビ、AAB秋田朝日放送、エフエム秋田
■**協力**:秋田県立近代美術館、秋田市立千秋美術館、東京都板橋区立美術館、ルネッサンス・角館、秋田県立角館高等学校同窓会、秋田県立角館南高等学校同窓会

ごあいさつ　秋田蘭画誕生の端緒は、安永2年（1773）秋田藩の鉱山指導のために招かれた平賀源内が、角館の御用商人五井孫左衛門宅に宿泊したおり、角館の武士小田野直武と出会ったことに始まります。源内から、その画才を認められた直武は、藩主で画人でもあった佐竹曙山や、直武の直接の上司である角館所預の佐竹北家当主佐竹義躬の推挙もあり、同年11月に藩銅山方産物取立役に任命され江戸へ上りました。江戸では、源内等との交わりから、前野良沢や杉田玄白が発刊を目指していた「解体新書」の解剖図を描く仕事が待っていました。銅版画という未知の画風を学び、近代医科学の始まりとなる「解体新書」に見事な解剖図を提供した直武は、その後次第に本格的な洋風画制作に向かい、秋田蘭画という画風を確立し、佐竹曙山、佐竹義躬等も活躍しました。

この度、寛延2年（1749）に角館で生を受けた秋田蘭画の祖小田野直武と佐竹義躬の生誕260年を記念し、二人が生きた時代の絵画・医科学・歴史を探る特別展「秋田蘭画とその周辺展」を開催することとなりました。

『平福記念美術館』では、秋田蘭画を代表する小田野直武、佐竹曙山、佐竹義躬や洋風画家石川大浪らの諸作品を通して、その系譜と秋田蘭画の果たした役割を明らかにする展示です。『角館樺細工伝承館』では、「解体新書」を中心とした医科学関係資料や博物学・本草学の諸資料から、その近代への歩みの一端を辿る展示です。『新潮社記念文学館』では、古文書や参考書籍から秋田蘭画発生の事情やその展開の様子、また平賀源内と小田野直武の関連事跡など歴史の側面に焦点を当てた展示です。

秋田蘭画発祥の地、ここ仙北市角館町は、武家屋敷をはじめ、多くの文化遺産が残る歴史と文化のまちです。こうした歴史、伝統、文化を継承するとともに、更に新しい文化を積み上げ、後世へと引き継いでいくことが私たちの責務であると考えております。この特別展を通して、歴史、伝統、文化に触れ、新たな文化の芽を育んでいただければ幸いに存じます。最後になりましたが、開催にあたりまして、多大なるご支援、ご協力をいただきました関係各位に心より感謝申し上げます。

仙北市長　石黒直次

仙北市民会館行事のお知らせ

11月7日（土）　15:00開演予定　“天翔る天上の調べ、今舞い降りる”ー 北部航空音楽隊コンサート ー

恒例の自衛隊音楽隊コンサート、今年は空飛ぶ音楽隊、北部航空音楽隊（青森県三沢）のコンサートです。入場は無料ですが、大変な人気のため入場観覧には入場整理券が必要です。
■**整理券配布日・配布場所**:10月15日（木）午前9時30分から、田沢湖・西木・角館の各庁舎総合窓口課並びに市民会館、各地区の自衛隊父兄会で行います。
※整理券の配布は、お一人様2枚まで、先着順無くなり次第終了いたします。電話他予約、取り置きは出来ません。　■**問合せ**:仙北市民会館　TEL（43）3143